



アースウォッチ・ジャパン

2019年度 野外調査プログラム

募集要項

認定特定非営利活動法人 アースウォッチ・ジャパン

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学大学院農学生命科学研究科
フードサイエンス棟 4階

URL: <http://www.earthwatch.jp/>

アースウォッチ・ジャパン 2019年度 野外調査プログラム

募集要項 目次

はじめに.....	3
1. 応募資格.....	5
2. 対象研究.....	5
3. 申請書の記載.....	5
4. 評価.....	6
5. 実施期間.....	7
6. 協働の役割分担.....	8
7. その他条件.....	8
8. 選定方法.....	9
9. 応募手続き.....	10

はじめに

アースウォッチは、市民が自らの手で地球環境を守っていく社会づくりを目指して、これまで、環境問題について実証的な研究活動を行っている研究者の野外調査の現場に、市民をボランティア（Science volunteers）として派遣する活動を行っています。

アースウォッチは、1971年に米国ボストンで誕生した国際的な NGO です。研究者と市民とを結びつける仕組みをつくり、研究者には調査に必要な人手と資金を支援し、市民には実際の調査に立ち会うことで地球環境が直面している諸問題を体感し、深く理解する機会を提供してきました。

（アースウォッチのミッションなど概要は、後付を参照ください）

アースウォッチ・ジャパンは、米国アースウォッチの活動を日本に広げるために1993年に発足し、海外の市民参加型野外調査プログラム（以下「調査プログラム」といいます）に日本人を送り出してきました。1995年からは海外だけでなく日本の研究者と協働した活動も開始し、これまでに50を超える国内の調査プログラムを運営し、1,500人を超えるボランティアが参加してきました。

このたびアースウォッチ・ジャパンは、重要度を増す環境保全分野に加えて、自然環境の再生・修復・伝統的利用・循環を追求する研究を広く支援し、研究の意義をより多くの市民に知っていただくために、日本国内の調査プログラムに協働する研究を公募いたします。

案件選定にあたっては、以下の三点を考慮します。

- ① 地球環境問題の理解や解決、持続可能な社会の実現に貢献する研究であること。
- ② 調査に参加した市民が、研究テーマを自分の問題として捉えられるような「自然と人との関わり」の視点があること。
- ③ 広く複数分野・機関が連携する研究や、「自然の多様なつながり」を重視した研究など分野横断型の視点があること。

アースウォッチ・ジャパンは、研究者の方々との調査プログラムを通じて、参加する多くの市民に、自然に対する科学的な価値観が醸成され、次の世代に環境意識が広がっていくことを期待しています。

研究者の皆さまの積極的なご応募をお待ちしております。

認定特定非営利活動法人 アースウォッチ・ジャパン

プログラム検討委員会（サイエンス・アドバイザー・コミッティ）より
応募して下さる研究者のみなさまへ

プログラム検討委員会は、アースウォッチ・ジャパン理事会の諮問機関として、野外調査プログラムの開発・審査・評価を行う組織です。

メッセージ

日本は先進国の中でも独特の自然観を持ち続けている国です。
それは、自然に生かされていることを知り、自然を活かすことを楽しみ、自然を往なすという概念で象徴されます。
このような基盤の上に、自然をどのような視点で捉え、そのためにどのような研究が必要なのか、多くの皆さんからの応募を楽しみにしています。

石田秀輝（東北大学名誉教授、(合)地球村研究室代表)

四季のうつろいに身をゆだね、豊かな文化を育んできた日本人。
その感性は、現代文明の進歩に追いやられつつある。
自然を探求し、自然に生かされる道を見出すことは日本民族の本領であり、日本から発信することは地球の未来につながる。

丹治富美子（詩人、作家）

地球の二大生物圏である森林と海洋、両者を紡ぐ水辺環境、これらの存続と再生に深く関わる私達の価値観の転換が持続社会の課題です。海への畏敬の念を払い、生命のふるさとである海からのアースウォッチを期待します。

田中 克（京都大学名誉教授、NPO 法人森は海の恋人理事）

地域の希少な自然を保全するだけでなく、その地域に住んでいる人たちが自然の恵みを実感し、より持続的に利用できるようにするための研究を期待します。

中静 透（東北大学大学院生命科学研究科教授）

自然観は、各国で様々な捉え方があります。欧米では、人間と環境を切り離れた別々の存在と捉えがちですが、日本では人間も環境の一部と見なす見方もあります。日本独自の視点に基づくユニークな提案を期待します。

八木 信行（東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）

1. 応募資格

日本国内に拠点を持ち、かつ、研究実績を3年以上持つ、下記①～④のいずれかの団体に所属する個人、グループ等を対象とします。

- ① 大学・博物館等の研究教育機関
- ② 公的研究機関（独立行政法人、地方独立行政法人、自治体及びそれらの研究機関に準ずる機関を指します。）
- ③ 財団・社団・特定非営利活動法人
- ④ 上記①～③の協働グループ

なお、申請は、当該団体に所属する職員の方を申請代表者とします。

2. 対象研究

2.1 研究領域

研究は、以下4つを**重点的な領域**として設定し、同領域あるいは同領域を含む複数に合致するものを対象とします。

- 1). 海と陸をつなぐ領域：沿岸生態系・海洋環境と陸域の環境など
- 2). 人間と野生生物の境界線の変動：里山環境・奥山と人里の環境など
- 3). 種に関わる領域：固有種・希少種・外来種の分布の変化など
- 4). 日本の自然観に基づいた領域：伝統的な資源利用、持続可能な資源管理のための知恵など
- 5). その他、アースウォッチ・ジャパンのミッションに即すると思われる領域・テーマ

2.2 対象地域

研究を実施する地域は、日本国内を対象とします。なお、海外における研究については、別途ご相談ください。

3. 申請書の記載

1). 申請者の基本情報

2). 対象研究

①調査研究の概要：

申請する「研究の背景」、「研究の目的」、「研究の意義・必要性・独自性」、「実施する研究調査の概要」について記述して下さい。

※研究の背景について

アースウォッチは、重要度を増す環境保全分野に加えて、自然環境の再生・修復・伝統的利用・循環を追求する研究を広く支援し、研究の意義をより多くの市民に知っていただくことを活動の目的としています。そのため、今回申請する研究について、研究対象となる野生生物や生態系の現状と課題を記述してください。また、既存の活動状況も記載してください。

②研究で期待される成果について

今回申請する研究で期待される、学術的・社会的成果について記述して下さい。

※学術的成果について

学術的意義について、具体的には地域的・全国的・国際的にもたらす成果について記述して下さい。科学論文による発表予定、また論文以外の研究成果の普及・啓発方法、研究成果の活用方法についても合わせてお考えを記述して下さい。

※社会的成果について

社会的意義について、具体的には研究成果がどのような形で社会に貢献できるかを記述して下さい。また、一般参加者に対する環境教育としての観点（※）から、調査活動に参加することで得ることのできる知識及び参加者が実際に行う作業の内容について記述して下さい。

※アースウォッチでは、研究者にとっても、参加するボランティアにとっても、互恵的なプログラムを目指しています。
科学的野外調査に一般の人々が参加することで、教育の機会を得て、持続可能な環境について理解し、持続可能な社会へ向けて必要な行動を促進できると考えています。

3). 調査計画

①調査地：

ボランティアの募集およびプログラム設計について検討するため、調査地およびその周辺地域についての情報を記述して下さい。

②研究計画：

研究計画とその方法を、目的の達成との関係が分かるように記述して下さい。

③ボランティア活動：

調査参加者が、実際に現地で行う作業内容を記載して下さい。

④ 調査チーム：

予定しているチーム数、ボランティアの希望人数および調査期間を記入して下さい。
1年間に各チーム 5人以上のチームを数チーム編成し、各チームの調査期間は日帰りから5日間（土日を含む）程度で構成されることが理想です。

⑤予算の概略：

アースウォッチのボランティアとスタッフの経費予算額を記入して下さい（ボランティアは集合場所までの往復旅費を自己負担します）

4. 評価

4.1 評価基準

以下の基準に基づき評価・選定を行います。

- ① 本助成の目指す領域・テーマへの適合（必須条件）
 - ・ 地球環境問題の理解や解決、持続可能な社会の実現のいずれかに貢献すること。
- ② 研究テーマ設定の妥当性、有効性
- ③ 研究の実効性
 - ・ 事業計画、手法等の観点から、着実、かつ実効性ある研究の遂行が期待されること。
- ④ 予算設計の妥当性
 - ・ 研究の遂行上、適切、的確な予算計上がなされていること。
- ⑤ 案件推進能力
 - ・ 実施主体が当該研究の遂行に十分な能力を持つと考えられること。
- ⑤ 関連実績
 - ・ 申請テーマ等に関する研究論文、メンバーの方々の略歴等について
- ⑥ 研究の社会性
 - ・ 研究調査に参加した市民が、研究テーマを自分の問題として捉えられるような「自然と人との関わり」の視点がある計画を歓迎します。
 - ・ 多種多様な分野・機関の研究と連携したり、「自然の多様なつながり」を重視した研究など、横断型の視点を歓迎します。

4.2 非対象研究

下記のような研究は、対象外とします。

- ① 営利（特許取得、商品開発等）を目的とした研究
- ② 政治的・宗教的な活動を目的とした研究
- ③ 特定の事業者や個人の利益に寄与すると見なされる研究

5. 実施期間

2019年4月より3年間とし、この期間を対象として1年単位で実施契約を締結します。3年を超える場合には、研究実績などを踏まえて継続の可否を検討します。

6. 協働の役割分担

6.1 アースウォッチの実施内容

- ・ 現地での野外調査プログラムについて、研究者と調整します。
- ・ 事前調査にて安全管理の確認をします。
- ・ 資金的なサポートを企業や助成機関に募ります。

（ただし、助成金や企業支援の獲得を保証するものではありません）

- ・ 研究者から提供されたコンテンツをもとに、事前に参加者に配布する参加解説書を作成します。
- ・ 環境ボランティアの募集と参加するまでの手続きや保険加入を行います。
- ・ 活動後の参加アンケートを行い、プログラム改善につなげます。
- ・ 支援している研究を広く知っていただくべく、環境保全について関心の高いコミュニティへ向けて研究の成果を情報発信します。

6.2 研究者に実施していただく内容

- ・ 野外調査活動の内容や研究の意義、成果などのコンテンツを提供いただきます。
- ・ 現地の調査プログラムにおいて、フィールド活動の指導やレクチャーを行っていただきます。なお、立ち上げ期以外の調査プログラムには、アースウォッチ職員は現地同行を通常致しません。現地での調査プログラムの運営は、研究者サイドでお願いします。
- ・ 調査データを取りまとめ、一年間の成果概要をアースウォッチ・ジャパン発行の年次報告書にて報告していただきます。

6.3 プログラム実施費用

- ① ボランティア宿泊費、食費、諸雑費、アースウォッチ運営費
プロジェクト参加費用としてボランティアから徴収します。
- ② ボランティア交通費
ボランティアの各自負担です。
- ③ 研究者および研究スタッフの現地滞在費、交通費、その他研究活動費用
企業などのご寄付・助成が得られた場合に、費用をご支援します。費用のご支援ができない場合は、研究者サイドでのご負担をお願いします。

なお、実施費用のうち③に関わる予算の概略は、申請書にご記入ください。（現在運営中のプログラムは、回数により 10 万円～100 万円程度で実施しています。）

7. その他条件

7.1 協働契約の締結

調査プログラムを実施する研究者とは、上記条件を含む実施内容の覚書を当法人と締結して頂きます（当法人所定の覚書にて締結頂きます。）なお、契約主体は、申請代表者とします。（契約期間は、3. で示したように助成期間全体を対象とします。）

7.2 成果の公表

調査プロジェクトの成果は、事前に内容のご了解を得たうえで、当法人ホームページ等で公表する場合があります。また、本助成の成果発表会や講演会等で発表をお願いする場合があります。

7.3 助成研究の成果等の公表

支援を受けた研究の成果に係る特許や著作権等の知的財産権は、申請者に帰属します。当法人がそのような権利を主張することはありません。対外公表する際には、当法人から助成を受けた旨の明示をお願いします。

8. 選定方法

8.1 選定プロセス

助成研究の選定は、当法人の諮問機関である「プログラム検討委員会（サイエンス・アドバイザー・コミッティ）」による一次審査、ならびに当法人の理事会による総合的判断に基づき決定されます。

なお、上記の選定プロセスに加え、一次審査の通過案件を対象に必要なに応じて面接を実施します。面接審査の対象案件の申請代表者には、別途詳細をご連絡いたします。

プログラム検討委員会（サイエンス・アドバイザー・コミッティ）

アースウォッチ・ジャパン理事会の諮問機関として、野外調査プログラムの開発・審査・評価を行う組織です。

■議長：石田秀輝

東北大学名誉教授、(合)地球村研究室代表
分野：バイオミクリー、自然に学ぶテクノロジー

■メンバー

丹治 富美子

詩人、作家
分野：源氏物語、五感、日本の自然観、自然との共生

田中 克

京都大学名誉教授、NPO 法人森は海の恋人理事
分野：自然再生を目的とした森から海までのつながりの科学「森里海連環学」

中静 透

東北大学大学院生命科学研究科 教授
分野：森林生態・生物多様性・植物生態

八木 信行

東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授
分野：農学国際専攻 国際水産開発学教室

8.2 選定結果の通知・開示

- ① 最終的な選定結果は、**2018年9月中**に、申請代表者にご連絡します。
- ② 選定された研究は、当法人ホームページにて公表します。

9. 応募手続き

9.1 応募締切

2018年7月20日（金） 郵送の場合は消印、宅配便受付印有効。

9.2 申請書類

所定の申請書類を用いて提出してください。所定の申請書類は、以下にあります。

http://www.earthwatch.jp/for_researchers/index.html

9.3 申請書類に関する注意事項

- ① 申請書類は書面で郵送・宅配便・電子メールでの送付による提出を受付けます。
- ② 郵送の場合、申請書は片面印刷としてください。クリップ等を使用し、ホチキスどめはしないでください。また、白黒でも認識できるようにしてください。申請書以外の書類は、その限りではありません。
- ③ 提出いただいた申請書類は返却いたしません。また、提出いただいた申請書の差し替えはできません。

9.4 申請書類の提出先

〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学大学院農学生命科学研究科

フードサイエンス棟4階

認定特定非営利活動法人 アースウォッチ・ジャパン 「2018 年度野外調査プログラム」係

e-mail: yitoh@earthwatch.jp

9.5 個人情報の取り扱い

当法人は、個人情報保護法及び関連諸法令を遵守し、当法人の個人情報保護方針に基づき、個人情報を適切に管理致します。詳細はwebをご確認いただくか、アースウォッチ・ジャパン事務局までお問合せください。

http://www.earthwatch.jp/about_us/privacy.html

以上

(ご参考)

アースウォッチ・ジャパン

概要

名称	認定特定非営利活動法人 アースウォッチ・ジャパン		
住所	〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学大学院 農学生命科学研究科フードサイエンス棟 4 階		
電話	03-6686-0300	FAX	03-6686-0477
e-mail	info@earthwatch.jp	URL	http://www.earthwatch.jp/

沿革

1993年1月25日	アースウォッチ・ジャパン設立
2003年2月28日	特定非営利活動法人認証
2013年4月1日	認定特定非営利活動法人 認定

ミッション

野外における研究者の科学的な調査や教育と市民をつなぎ、参加した市民が自然環境や生物の変化に対する認識や理解を深め、持続可能な環境のために行動することを促進します。

活動概要

- ▶ 海外野外調査プロジェクトへの日本人ボランティアの派遣
- ▶ 日本国内野外調査プロジェクトの企画・運営
- ▶ セミナー等の開催
- ▶ 研究者の講演会：アースウォッチ・ジャパンが主催する野外調査プロジェクトの主任研究者による研究成果報告会。
- ▶ ボランティアによる体験報告会：毎月、アースウォッチの国内外プロジェクトに参加したボランティアによる体験報告会を実施。